

# 事業評価シート（平成27年度分）

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	商店街にぎわい創出事業		
事業担当	産業振興部 商業観光課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'02	②〈まちの顔〉 活気ある魅力的な中心市街地をつくる	
	'01	1 人々が集まり、にぎわいと活気にあふれる街づくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	中心街イベント実行委員会等	事業期間	
委託・協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： イベント実行委員会等】		
	目的・目標		事業の概要
活発な商店街活動により、商店街に人が集まり、にぎわっています。		商店街の活性化を促進するため、商店街団体等が行う交流事業や販売促進活動事業を支援します。	

## 2. 事業の検証

活動指標①	指標名	補助対象事業数			単位	事業
	説明・算定式	補助対象となる商店街の交流事業や販売促進事業数				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績	17	17	17		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績					
成果指標①	指標名	商店街の交流事業や販売促進事業への来場者数(平成26年度から)			単位	人
	説明・算定式	主催者の発表した来場者数等を集計				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績		115,400	126,607		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績					
進捗状況	①：予定どおり					
	遅れている理由					
平成27年度の主な取組と成果						
<p>専門知識や経験を有するアドバイザーを派遣し、商店街が抱えている課題の改善や販売促進事業の企画立案等の経営支援を行いました。また、中心商店街や地域の商店街で開催される各種イベントや販売促進活動を支援し、中心商店街のにぎわいアップと地域商店街での市民とのふれあいを促進しました。さらに、空き店舗対策事業等を行う平塚市中心市街地活性化調整協議会の活動を支援しました。</p>						
平成27年度の検証結果	A：成果があがった					

項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
事業分析	必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市民意識調査で賑わいを感じられるまちづくりが期待されており、商店街のにぎわい創出を市がまちづくりの一環として、継続的に事業を実施していく必要があります。	● 高 ○ 低
	有効性 <input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	市民意識調査で賑わいを感じられるまちづくりが期待されており、事業の実施は市民の満足度が高めることができます。また、地域コミュニティの醸成は、継続的な実施で販売促進に繋げることが期待できます。	● 高 ○ 低
	妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	商店街のにぎわい創出は、市民の買物環境の改善に繋がらるもので、商店街(受益者)が主体的に取組み、市は経営支援や情報発信等による側面支援であるため、事業の実施は妥当です。	○ 高 ● 中 ○ 低
	効率性 <input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	平塚商工会議所、平塚市商店街連合会と連携し実施していますが、将来的には、中心街の活性化を図る組織が独自に事業を展開できるよう、市が支援していく必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低
<b>今後に向けた課題の分析</b> 中心商店街では、周辺の大型商業施設との差別化を図るため、購入者層の特定やコンセプトを具現化する必要があります。また、地域商店街では、地域コミュニティの担い手の一つとして顧客との信頼関係を構築するとともに、地域に密着した取組みを進める必要があります。			

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 決算額
事業内容		商店街にぎわい創出事業への補助	商店街にぎわい創出事業、消費税増税対策事業への補助	商店街にぎわい創出事業への補助
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	163,168
	一般財源	5,345	38,035	4,636
事業費 (A)		5,345	38,035	167,804
執行率 (%)		66.45	18.30	96.50

## 4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

<b>平成29年度の取組方針</b> 中心商店街のにぎわいと地域商店街の活性化を促進するため、販売促進事業や地域コミュニティ事業を支援します。また、大型商業施設出店等に対応した中心商店街の活動を支援します。
<b>課長コメント</b> 中心商店街の活性化については、周辺で開業する大型商業施設への対応に向けた事業を展開します。